

# いぐだたみ

No. 171  
2013年11月

## 長崎ゆかりの文学展

### 第3回企画展「長崎の現代作家展」開催中

県立長崎図書館では、本県にゆかりのある作家や文学作品を中心に、「長崎ゆかりの文学展」として、年間4回の企画展を開催しています。今秋の企画展は「長崎の現代作家展」です。

長崎の作家たちは、自らが生まれ育った長崎の自然、歴史や風土を背景に、独自の作品世界を構築してきました。

今回の企画展では、長崎県出身の現代作家の中で村上龍氏、さだまさし氏、佐藤正午氏、青来有一氏、垣根涼介氏、吉田修一氏などについて、貴重資料や著書等を展示して長崎との関わりやその文学の持つ魅力を紹介しています。

各作家の作品やインタビュー記事などの関連資料の他に、下記のような直筆資料を展示しています。



**村上龍氏の原稿** …… 「限りなく透明に近いブルー」の冒頭部分「69 sixty nine」（佐世保市立図書館蔵）

**さだまさし氏の色紙** …… 「長崎県立図書館さまー幼いころからこの図書館が遊び場でした。僕の原点です。」

**佐藤正午氏の原稿** …… 「童貞物語」「彼女の電気あんか」（佐世保市立図書館蔵）

**青来有一氏の署名本** …… 『爆心』『青来有一』

**垣根涼介氏の色紙** …… 「長崎県立長崎図書館様 Dawning day Dawning life 垣根涼介」

**吉田修一氏の色紙** …… 「長崎県立図書館様 吉田修一」

読書の秋を楽しむための様々な作品をご紹介します。会期は12月23日（月）までです。この機会にぜひご来館ください。



- ◎ 長崎ゆかりの文学展第3回企画展 …………… P 1
- ◎ 第29回県立長崎図書館講座 …………… P 2
- ◎ 県内図書館散歩 …………… P 2
- ◎ 寄贈図書紹介<名著複刻全集 近代文学館>…………… P 3
- ◎ 資料紹介<理科年表>…………… P 4
- ◎ 特別寄稿(子どもの読書に思う)…………… P 5
- ◎ 職場体験活動紹介…………… P 5
- ◎ お知らせ、行事案内等…………… P 6

## 第29回 県立長崎図書館講座

### 講演「歌人 竹山広の世界 ～原爆詠を中心に～」を開催しました。

長崎ゆかりの文学展第2回企画展「原爆文学展」に連動した文学講座を7月27日（土）に開催しました。長崎歌人会会長の馬場昭徳氏を講師にお迎えし、竹山広氏の原爆詠を中心とした作品世界の豊かさや深さについてお話をしていただきました。

竹山氏のまな弟子として誰よりも近くで、その歌と人物に触れてきた馬場氏は、短歌史上に残る竹山氏の鮮烈な原爆詠の背景に徹底

した主観の排除や自己に対する批判的な眼差しがあると分析され、その作品世界について熱く語って

いただきました。竹山氏の全歌集を網羅した重層的な解説と師に対する思いにあふれた語り口に、会場を埋めた聴衆は時を忘れて聞き入っていました。

受講者からは、「言葉の持つ力、そしてそれを読み込んでの講演は素晴らしかった。時間が短かった。」「知と情をもって深く読み取っておられる解説に大変感動しました。」等の感想が寄せられ、大変好評でした。



講師の馬場昭徳氏

## シリーズ 県内図書館散歩①

— 西海市立西彼図書館・  
西海市立大島図書館 —

西海市では、西彼図書館、大島図書館の2つの図書館と、西海歴史民俗資料館図書室、崎戸中央公民館図書室、大瀬戸歴史民俗資料館図書室の3つの図書室で図書館業務を行っています。

平成23年度から公立図書館員全員で始めた、年に一度の「図書館まつり」では、今年度からボランティアグループの皆さんも加わり、パネルシアターや読み語り、人形劇、工作教室を行い、来場された皆さんに「本の世界」を楽しんでいただいています。



また、要望があった幼稚園や保育所への団体貸出や市内小中学校には移動図書や団体貸出サービスのほか、職場体験学習の場として生徒さんの受け入れや保健福祉部局と連携を図りながら乳児健診時にブックスタートパックを提供するなど、少しでも読書に親しんでもらえるように、様々な図書館サービスに取り組んでいます。

今後は、ボランティアグループさんの協力をいただきながら、地域にあった図書館サービスを提供し、さらに親しみやすい図書館づくりを努力していきたくと思います。

## 寄贈図書紹介

### 『名著複刻全集 近代文学館』 ～作家と装丁～

『名著複刻全集 近代文学館』は1968年(昭和43)～1969年(昭和44)に発行された全集で、明治～昭和初期に出版された文学的名著の初版当時の装丁を忠実に再現しています。

明治期には西洋から洋装本の製本技術が入ってきましたので、日本の出版物もそれまでの和装本から現在の洋式製本へと変わっていきます。

製本技術の向上と相まって、明治30年代から流行するアールヌーボー様式(19世紀末から20世紀初めにフランスを中心に欧州で流行した芸術様式。植物模様や流れるような曲線が特徴)の影響を受け、明治から大正時代にかけて個性的な装飾を施した美しい装丁の本が数多く出版されました。

下記に紹介する本はその代表的なものですが、この他にも100冊あまりの複刻本が寄贈されています。

秋の夜長の一瞬、電子書籍では味わえないこれら華麗な本の手触りを堪能してみてはいかがでしょうか。

漱石のデビュー作。ロンドン留学の際に多くの洋書を買求め、西洋の装丁に対しても造詣の深かった漱石は、自らの著作の装丁に対しても意匠を凝らしている。

表紙カバーは舶来淡色ラシャ紙を使った木版画。小口はアンカット装(袋綴じをペーパーナイフで切り開きながら読む)、天金(上部を金色に塗ったもの)を施している。

この本の装丁をした橋口五葉は、その後日本を代表する装丁家となった。



#### 『吾輩ハ猫デアル 上・中・下』

(著) 夏目漱石 明治38年



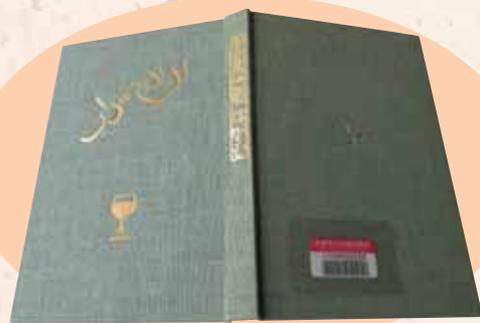
#### 『刺青』

(著) 谷崎潤一郎 明治44年

こちらは谷崎潤一郎のデビュー作。装丁は『吾輩ハ猫デアル』と同じ橋口五葉。この本の装丁は蝶模様の表紙から“胡蝶本”と呼ばれている。

吉井勇の第一歌集。装丁は背文字と表紙絵に金箔を施しているが、上記の2冊に比べると地味に感じられる。

しかし、この一冊の歌集は、装丁を高村光太郎が、カットを藤島武二、そして口絵を木下空太郎が担当するという、作家吉井勇と画家たちの競演の場となっている。



#### 『酒ほがひ』

(著) 吉井 勇 明治43年

参考文献：『文豪の装丁』NHK出版

『装丁探検』(著) 大貫伸樹 平凡社

# たった1冊で視界がひらける

～『理科年表』で「今」を知る～



『理科年表』という本をご存じでしょうか。

「科学の全分野を網羅する」とオフィシャルサイトでも紹介されているとおり、気象や地学、環境などの色々なデータが満載されています。

創刊は大正14年（1925年）で、昭和19年から21年を除けば毎年発行されており、県立長崎図書館にも所蔵があります。（欠号あり）所蔵している中で一番古い『理科年表』は昭和3年版で、最新版と比べると大きさも小さく、掲載内容も異なる部分があります。

例えば富士山の高さ、たとえば「3776m」が当たり前の現在ですが、昭和3年版は「3778m」となっていたり、雲仙岳（昭和3年版の表記は「温泉岳」）は平成新山ができたことにより、最新版では高さが100m以上高いデータが掲載されています。

毎年発行されている本ですので、その当時の「今」を知ることができる貴重な資料となっています。



平成25年（最新版）の机上版  
国立天文台編、丸善（2012）



昭和3年版の『理科年表』  
定価は「壹圓五拾銭」と  
奥付にあり



「理科年表オフィシャルサイト」  
（国立天文台・丸善 <http://www.rikanenpyo.jp/>）  
「徹底解説」のページやFAQなどは無料で閲覧可能

理科年表は、暦部、天文部、気象部、物理／化学部、生物部、環境部、附録で構成されています。

気象部には国内外の気象データの基準値が掲載されており、教科書や旅行パンフレットなどで見かける気候のグラフは、おもにこちらのデータが使用されています。

実際に県立長崎図書館にあったレファレンス例としては、「ガイド本に載っていないような地域を旅行するので、服装を決める参考にするため、旅行する時期のその地域の気温などを知りたい」という相談がありました。理科年表には世界240カ所の地点で観測された気象観測平均値（過去30年間）が掲載されていますので、主要都市以外の気候を知りたい時なども利用できます。

また、地学部には山の高さや川の長さなどのデータがあり、これらは地図帳を作る際に参考にされています。日本付近のおもな被害地震年代表には、いつどこで地震があったか、その被害状況も掲載されています。

ちなみに日本最古の記録に残されている地震は、「日本書紀」に見え、西暦416年に起きたものだそうです。

年表に掲載されている地震は400以上。改めて「地震大国日本」を、データから実感することができます。

『理科年表』では、他にもまだまだたくさんを知ることができます。

なかなか見つけられなかった理科系の調べものがありましたら、ぜひ一度図書館で開いてみてください。

最後にクイズを。答えが気になる方は、『理科年表』を見るとすぐに分かるはず！



- Q1 東京からパリまでの距離と、東京からローマまでの距離で、遠いのはどちらでしょう。
- Q2 長崎県の島しょ（外周0.1km以上の島）の数は？ 全国No.1の多さです。
- Q3 ノーベル物理学賞の初代受賞者は誰でしょう？ 病院でおなじみのあるものを発見しました。

## 特別寄稿

# 子どもの読書に思う

長崎県立長崎図書館協議会委員 高田 三佳 氏

子どもの読書に関わり四半世紀が過ぎた。ボランティア、教師、学校司書、親としての様々な立場から、沢山の子どもと本の思い出がある。とりわけ学校図書館に没頭。図書館を学校教育に活用する貴重な試みに長年関わることもできた。子ども達の目の輝きに何度も感動した。図書室で素晴らしい一面を見せる先生方にも出会えた。教育への希望が持て、大変やりがいがあった。近年、県下に学校図書館職員が広がり、期待をふくらませた。

こうして邁進してきた私だが、スランプ。ここまではほんの入口だった、これからがやっと本題だと思い知った。中高校生がなかなか自ら本を手にしなない状況は、学校司書が入っても簡単には変わらない。小学生までに沢山の読みかたりを聞いたはず、何冊も本を手にしたはずの子ども達の育つ先が十分に用意されていない。中高校生の我が子達は、部活や塾で遅く帰宅し束の間の趣味とケータイと宿題で一日を終える。よほど本好きでないと、よほど読みたい本に出会わないと、読書する時間など作るはずもない。私も今や親として納得している。ああ人生最高の読書の時なのに…。

「昔の子どもは、本を読んだ後、特に予定がなかったから空想の時間が持てた。」先日TVで、ある児童文学者の談話を耳にした。そうだ、子どもの読書にはゆったりとした時間感覚が必要なのだと思った。今や子どもの生活と心は、あまりに変化が速く見えにくい。

しかしもはや時流には逆らえず、時代に合った手立てを望むばかりである。資料の更新や電算化等により内容と対応の向上を急ぎ、子ども達を図書館の機能（はたらき）の中に置くこと。読書の魅力や意義そして技術を“あわてず丁寧に”教え育むこと。発達段階に応じて！ それらを可能にするための学校図書館職員の広がりでもあってほしい。

## 職場体験活動の紹介

長崎市立西泊中学校  
2年 木戸 真之さん

三日間、職場を体験させていただいて感じたことは、仕事の難しさと楽しさです。約105万冊の資料の中から一つのものを探すという作業が、非常に難しく大変でした。また、探し出した雑誌などを新しく登録したりするところも大変でした。

しかし、各課の皆さんが明るく分かりやすいように対応してくださったので、精一杯仕事に励むことができました。また、同時に言葉遣いやコミュニケーションの大切さも学ぶことができました。職場の人たちの笑顔あふれる対応に、質問もしやすかったです。

この度は、高校、大学、社会人になるためのすごく良い体験になりました。この体験で学んだことを将来にいかしていきたいです。私の職場体験のために快く受け入れてくださった館長さん、課長さんをはじめ多くの皆様に心から感謝します。



# 長崎県内観光情報コーナーにお立ち寄りください。



本館2階ロビーでは長崎県内の各市町及び各観光協会から取り寄せたパンフレットやチラシ等を展示、配布しています。

県内情報の収集に最適ですので、図書館にお越しの際は是非お立ち寄りください。

また、長崎県が発行するパンフレット、チラシ等を展示、配布している「長崎県の情報コーナー」も設置しておりますので、あわせてご利用ください。

## お知らせ・お願い

### ●蔵書の点検・整理等に伴う休館のお知らせ

蔵書の点検・整理のため、下記のとおり休館します。休館中は、本の貸出・調査相談・予約の業務を休止します。

利用者の皆さまにはご不便をお掛けしますが、ご理解とご協力をお願いします。

なお、休館中の本の返却については、本館玄関横の「返却ポスト」をご利用ください。

**期間** 平成26年1月28日(火)～2月6日(木)

### ●地域資料収集にご協力ください。

本館では、長崎県及び県内各地域に関するあらゆる資料を、地域資料として幅広く収集しています。

#### 「地域資料」とは

#### ① 長崎県内各地に関するもの

地域の歴史や地理、伝統文化、政治、経済、産業、スポーツ、芸術などについての著作物

#### ② 長崎県出身者・在住者・在職者の著した資料

小説・歌集・句集・文集・写真集・美術関係の作品集・自分史など

#### ③ 長崎県内で発行された資料

県内の自治体及びグループなどが作成した調査資料や同人誌

県内企業の社史・社内報・研究報告書

広報・雑誌・パンフレット・

フリーペーパー など

※電子資料・DVD・CD・ビデオテープなども収集しています。

#### 資料のご寄贈 について

できましたら、3部（保存用・閲覧用・貸出用）ご寄贈ください。

ご寄贈いただいた資料は、広く県民の方々の利用に供するとともに、永年保存し、次世代への文化継承に努めていきます。

## 催し物のご案内

### 「長崎ゆかりの文学展」 (第4回企画展)

#### 「収蔵品展～長崎の文学者とふるさと～」

(平成26年2月7日～平成26年4月6日)

場所：県立長崎図書館4階郷土資料展示室

時間：9:30～17:00 (ただし休館日を除く)

### 常設展

#### 「シリーズ長崎文学散歩」(第6回)

開催中です。

平成26年1月13日(月)まで